

福島県海浜青年の家

第1節 概要

福島県海浜青年の家は、めぐまれた自然環境のなかで青少年に集団宿泊研修の場と機会を提供し、規律・協同・友愛・奉仕の精神を体験的に会得させ、心身ともに健全な青少年の育成を目的として設けられた社会教育施設である。

当所の教育目標は次の通りである。

- 規則を守り、規律ある態度を養う。
- 相互連帯意識を高め、協同の精神を養う。
- 人格を尊重し合い、友愛の精神を養う。
- 勤労と責任を重んじ、進んで奉仕する態度を養う。
- 心身をきたえ、自己を高めようとする態度を養う。

1 役員および職員組織

(1) 理事・監事

役 職	氏 名	所 属
理 事 長	邊 見 榮之助	福島県教育委員会教育長
副 理 事 長	高 城 勤 治	福島県総務部長
専 務 理 事	鈴 木 雄 一	財団法人福島県海浜青年の家所長
常 務 理 事	小山田 憲 司	財団法人福島県海浜青年の家次長 昭和58年9月30日付退職
理 事	佐 藤 昌 志	福島県教育庁教育次長
理 事	今 野 繁	相馬市長
理 事	鈴 木 完 一	福島県社会教育委員の会議議長
理 事	太 田 緑 子	福島県青少年教育振興会会長
理 事	土 居 正	福島県教育庁社会教育課長
監 事	坂 田 重 勝	福島県教育庁財務課長
監 事	大 内 忠 昭	福島県総務部財政課長

(2) 職員組織

職 名	所 長	庶次 務 長 課 長兼	指 導 課 長	主 事	指 導 主 事	保 健 技 師	兼 用 転 務 員 手	計
数	1	1	1	1	4	1	1	10

(3) 運営委員

氏 名	所 属
◎大 谷 明	相馬市教育委員会教育長
○今 泉 修 蔵	福島県公民館連絡協議会会長
遠 藤 修	福島県青少年婦人課長

氏 名	所 属
前 川 善 明	福島県教育庁社会教育課主幹
古 川 正 二	福島県高等学校長協会相双支部長
大 石 芳 彦	相馬地方中学校長会会長
太 田 豊 秋	福島県青少年団体連絡協議会代表
天 野 淳 乗	相馬市青年会議所代表
村 岡 まゆみ	相馬市青年協議会代表
種 村 英 明	福島県海浜青年の家友の会会長

◎印委員長 ○印副委員長

2 昭和58年度重点目標と成果

(1) 生涯教育構想に基づいた青少年の研修の充実

広報活動の推進、対象に応じた資料の提供につとめ、勤労青少年、団体指導者の研修の充実をはかった。

学校との連携を密にし、在学青少年の研修が効果的に行われるようにつとめた。

(2) 主催事業の効率的運営

各事業の趣旨をふまえ、学習要求に応じた研修内容の精選、優れた講師陣の招へい、他施設との協力などにより主催事業の効率的な運営につとめた。

(3) 現職教育の推進

生活指導の効率化をはかるために、事前打合せのあり方およびオリエンテーション時における視聴覚機器の活用について研究をすすめた。

(4) 安全管理の推進

事前打合せにおける引率者との連携、野外施設・野外コース・海水浴場などの点検整備を強化し事故防止の徹底をはかった。

食中毒の防止対策、防火体制の充実強化により、本年度も無事故を達成した。

(5) 施設設備の充実

野外活動コースの増設と運動広場の整備により、充実した研修活動を促進し多様化をはかった。

所員の努力と研修生の協力により、本年も花いっぱいコンクールで特別賞を受賞した。